

大淀川水系八重川(津屋原沼)

津波・高潮対策事業



国土交通省 九州地方整備局

宮崎河川国道事務所

【津屋原沼津波・高潮対策事業】

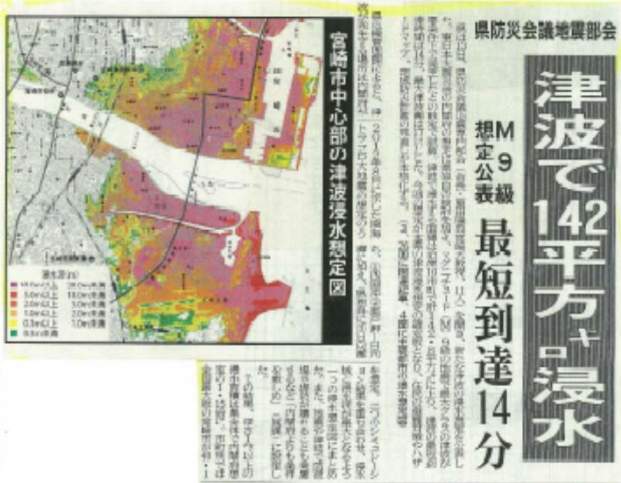
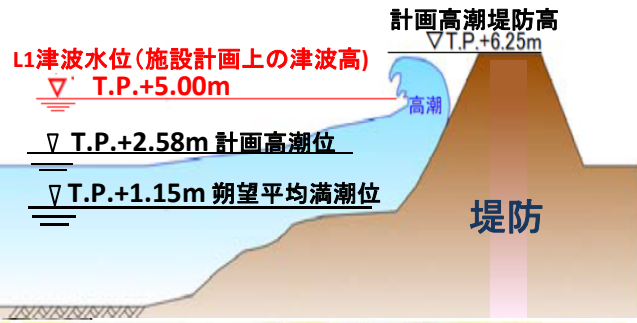
大淀川水系八重川は大淀川河口近く(0k200m)の右岸側に合流する直轄管理河川です。八重川の右岸部には宮崎県が管理する津屋原沼(通称:タンポリ)が接しています。八重川の管理延長は約2.4kmと短い区間ですが、津屋原沼を含めた背後地には宮崎空港や病院、学校、商業施設、住居などが密集する市街地が形成されています。

しかしながら津屋原沼そして八重川の右岸の一部には堤防が整備されていない区間が存在しており、高潮や津波が発生した場合、甚大な被害が発生する恐れがあります。

平成23年の東日本大震災では、大規模な津波によって多くの尊い人命が失われました。宮崎においても南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されており、日向灘に近い津屋原沼周辺は大規模な津波が予想されています。これらの災害に備え、被害を最小限にとどめるため、八重川と津屋原沼を結ぶ約1kmの堤防整備を進めることとしました。



堤防計画諸元



H25年2月14日 宮崎日日新聞社提供

【津屋原沼(タンポリ)堤防デザイン設計における構成】

八重川津屋原沼整備検討会

タンポリらしさ(環境・景観・利用・防災)を目指す計画について、専門的な見地から助言を行う (H26～H27 3回開催)

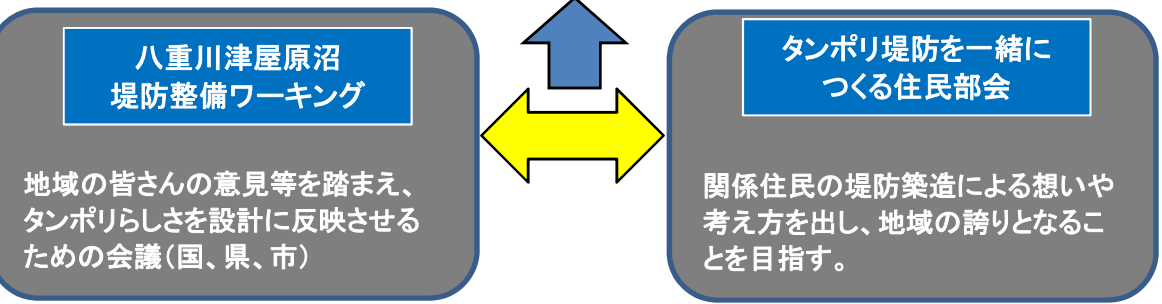
- ◆学識者: 河川工学、景観、水環境、環境
- ◆地元代表者: 宮崎内水面漁業協同組合、赤江地区自治会連合会
- ◆行政: 国、県、市



住民部会の様子
(堤防線形など模型・CIMで説明)



住民ワークショップの様子
(住民20名程度が4班にわかれ意見交換・発表)

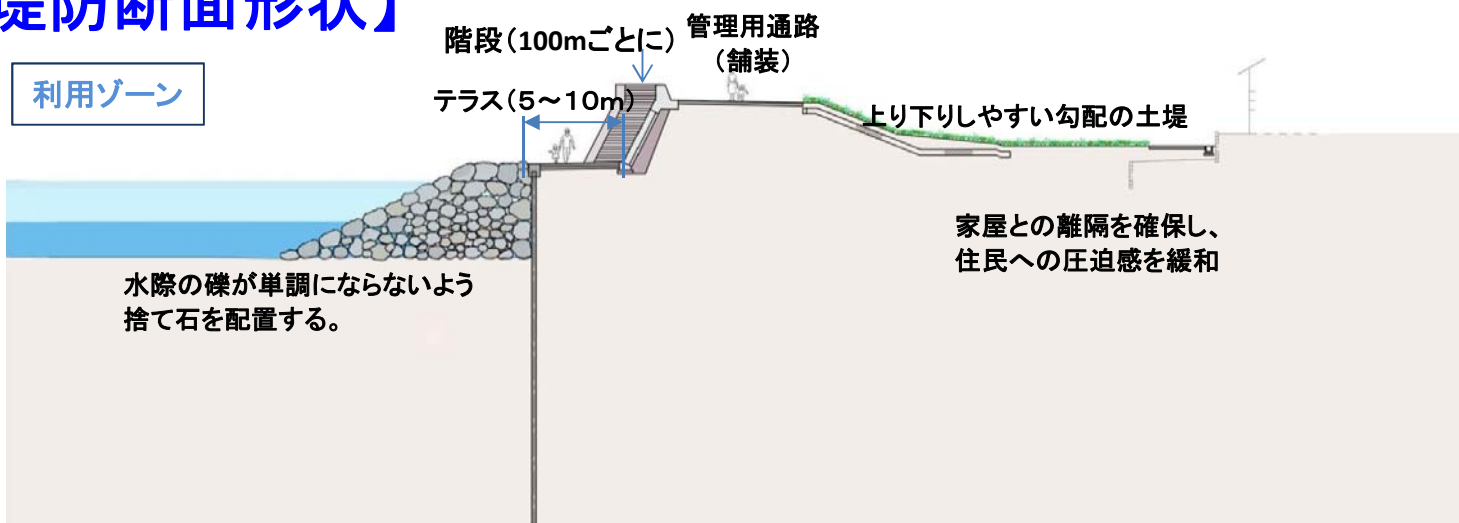




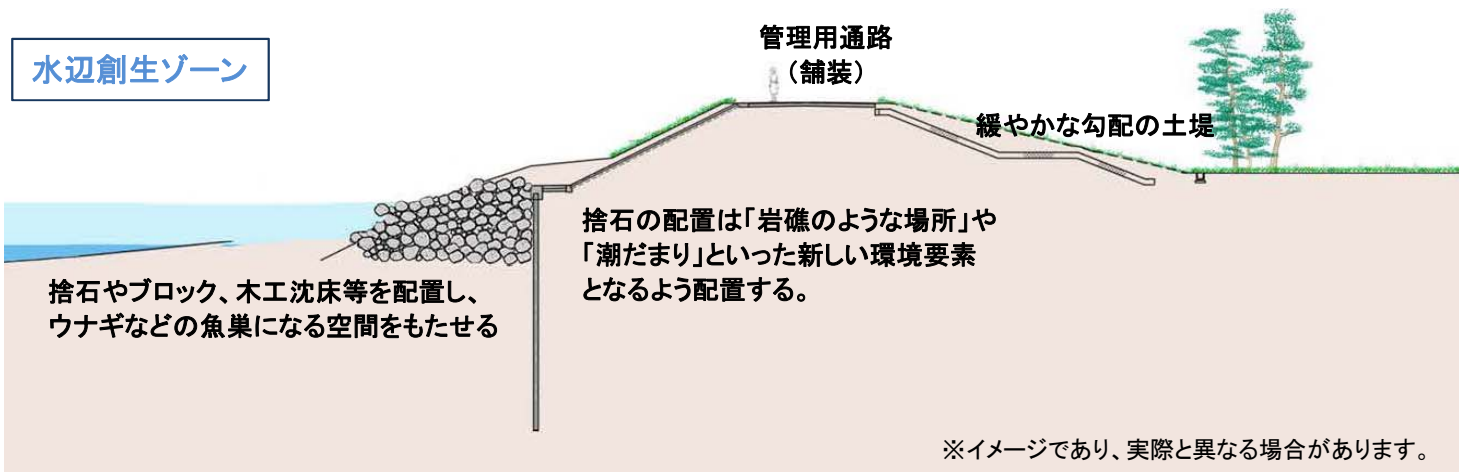
完成イメージパース

【堤防断面形状】

利用ゾーン



水辺創生ゾーン



※イメージであり、実際と異なる場合があります。

【津屋原沼の歴史的変遷】

昭和22年

昭和18年に日本軍が赤江に飛行場をつくる際に土砂採取のため浚渫して沼が形成。

昭和37年

・人工的だった水際が、干潟のような浅瀬がみられる。

昭和50年

・沼岸には松林が連続する。

昭和61年

・津屋原沼の西岸に樹林帯
・マリーナ付近に棧橋が設置



【八重川と津屋原沼の環境】



平成22年の状況



沼口に広がる干潟(平成26年6月12日撮影)



ハクセンシオマネキ(RD:準絶滅危惧)



コアマモ(県RD:準絶滅危惧)



ナリヒカミカイ(県RD:絶滅危惧ⅠB類)



アカメ(県RD:絶滅危惧Ⅱ類)



津屋原沼

コアマモの生育状況(平成26年6月12日撮影)
※アカメの幼魚は、コアマモの中で生息する。

津屋原沼(タンボリ)周辺の干潟・湿地に生息生育する希少な生物